

文部科学省のクールジャパン施策

文部科学省におけるクールジャパン関連の主な取組

【これまでに実施した主な主催事業等】

- 文化芸術の海外発信拠点形成事業（平成 23 年度新規事業、27 団体を採択）
（アーティスト・イン・レジデンス等への支援）
- メディア芸術祭海外展（平成 23 年 9 月 10 日～10 月 2 日、ドイツ（ドルトムント））
- ヨコハマトリエンナーレ 2011（平成 23 年 8 月 6 日～11 月 6 日、横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫など）
- 東アジア共生会議（平成 23 年 12 月 13 日、14 日、イイノホール（東京））

【今後の実施予定の主な主催事業等】

- 世界文明フォーラム（平成 24 年 2 月 6 日、7 日、東京プリンスホテル）
- ロンドンオリンピックの JOC ジャパンハウスにおける日本の魅力発信（平成 24 年 7 月 27 日～8 月 12 日、英国・ロンドン）
- メディア芸術祭（平成 24 年 2 月 22 日～3 月 4 日、国立新美術館（東京））
- 東アジア文化交流推進プロジェクト（平成 24 年度新規事業）

【その他関連事業等】

- 日中映像交流事業（開幕イベント（日本映画・テレビ週間、日本アニメ・フェスティバル）：平成 23 年 6 月、中国（北京・上海） 日本アニメ・フェスティバル：平成 23 年 11 月、中国（上海））
- 日独交流 150 周年記念イベント＜平和の光のメッセージ＞（平成 23 年 9 月 8 日～10 日、ドイツ（ベルリン））
- 日韓交流おまつり 2011 in Tokyo（平成 23 年 9 月 30 日～10 月 2 日、東京（六本木ヒルズ））
- Japan・Indonesia ポップカルチャーフェスティバル（平成 24 年 3 月 1 日～3 日）
- サロン・ド・リーブル 2012 における「日本年」事業（平成 24 年 3 月 16 日～19 日、フランス（パリ））
- 「日米桜寄贈 100 周年」における日本の現代ポップカルチャー発信事業（平成 24 年 3 月、米国（ワシントン D.C.））

文化芸術の海外発信拠点形成事業の概要

1. 事業の趣旨・目的

異文化交流の担い手となる外国人芸術家の積極的受け入れや、国際的な文化芸術創造といった各地域において取り組まれている特色ある国際文化交流事業（アーティスト・イン・レジデンスなど）を国として強力に支援することで、日本各地に文化創造と国際的発信の拠点づくりを推進する。

2. 事業の概要

(1) 補助対象者

地方公共団体やNPO法人、一般社団・財団法人、特例民法法人など法人格を有する者、実行委員会 等

(2) 補助対象事業

① アーティスト・イン・レジデンス事業

外国人芸術家を招へいして行う滞在型の芸術創造支援プログラム（いわゆる、アーティスト・イン・レジデンスプログラム）及びそれに附随して実施される下記の事業

- 外国人研究者・学芸員を招へいして行う滞在型の我が国文化芸術の研究支援プログラム
- 招へいた外国人芸術家が実施する創作作品の展示会、共同創作活動、ワークショップ、講演会、セミナー・シンポジウム 等

② アーティスト・イン・レジデンス類似・関連事業

- 国際展等の国際芸術フェスティバルにおいて、外国人芸術家を招へいして行う滞在型の芸術創造、展示会・公演等のプログラム、
- アーティスト・イン・レジデンス及び芸術系大学等教育機関との連携により行われる共同創作、展示会・公演等のプログラム
- 優れた外国人芸術家を招へいして行う滞在型の国内外若手芸術家の教育プログラム 等

(3) 補助額及び採択予定数

- ① アーティスト・イン・レジデンス事業【継続】 20件程度 × 500万円（定額）
アーティスト・イン・レジデンス事業【新規】 4件程度 × 500万円（定額）
- ② アーティスト・イン・レジデンス類似・関連事業 3件程度 × 800万円（定額）

※ 東日本大震災復興に資する事業については、採択にあたって配慮することとする。

3. 今後の予定

- (1) 募集開始【平成23年12月28日（水）】
- (2) 募集〆切【平成24年1月27日（金）】

平成23年度「文化芸術の海外発信拠点形成事業」採択一覧

【アーティスト・イン・レジデンス事業(20件)】 1件あたり 5,000千円

No.	申請団体	プログラム名
1	アーカスプロジェクト実行委員会	ARCUS Project 2011 IBARAKI (アーカスプロジェクト2011いばらき)
2	特定非営利活動法人 アーツイニシアティヴトウキョウ	東京から世界へ、新たな「知」と「経験」をつなぐアーティスト・イン・レジデンス・プログラム～アジア、南米、中東、アフリカなどの国と地域から～
3	公立大学法人青森公立大学	ACACアーティスト・イン・レジデンス2011 「再考現学/Re-Modernologio」
4	特定非営利活動法人S-AIR	ICC+S-AIR2011 - FRONTIER -
5	特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構	越後妻有大地の芸術祭の里 ーオーストラリア・ハウス・アーティスト・イン・レジデンスプログラム
6	公益財団法人京都市芸術文化協会	京都芸術センター アーティスト・イン・レジデンス・プログラム
7	財団法人高知県文化財団	舞台芸術レジデンス・プログラム from高知 and 横浜
8	特定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター	「黄金町バザール」国際アーティスト・イン・レジデンス
9	合同会社コマンドA	AIR3331-アーツ千代田3331を起点としたレジデンスプログラム
10	一般社団法人産業人文学研究所	CfSHE/木版画ラボ アーティスト・イン・レジデンス事業 水性木版画制作プログラム
11	特定非営利活動法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク	JCDN 国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクト
12	公益財団法人セゾン文化財団	レジデンス・イン・森下スタジオ
13	財団法人瀬戸市文化振興財団	瀬戸国際セラミック&ガラスアート 交流プログラム
14	特定非営利活動法人ダンスボックス	DANCE BOX Resident Program 2011
15	福岡市	福岡アジア美術館 美術作家、研究者・学芸員等招聘事業
16	特定非営利活動法人BEPPU PROJECT	KASHIMA 2012 BEPPU ARTIST IN RESIDENCE
17	美濃・紙の芸術村実行委員会	美濃・紙の芸術村事業
18	一般財団法人山口県文化振興財団 秋吉台国際芸術村	秋吉台国際芸術村アーティスト・イン・レジデンス・プログラム
19	遊工房アートスペース	遊工房アーティスト・イン・レジデンスプログラム
20	リッジクリエイティブ株式会社	近代化産業遺産を活用したアートスペースによる国際連携プログラム

【アーティスト・イン・レジデンス類似・関連事業(7件)】 1件あたり 8,500千円

No.	申請団体	プログラム名
1	有限会社アゴラ企画	日仏若手演出家シリーズ
2	京都造形芸術大学	海外アーティストと芸術大学によるレジデンスプロジェクト 「Creators in University」
3	特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター	舞台芸術に関するアーティスト・イン・レジデンス(AIR) ネットワーク構築のための国際会議(仮称)
4	社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団	OutsiderLive of Japan 発信拠点形成事業 糸賀一雄記念賞 第10回音楽祭 特別記念プロジェクト「宇宙遊泳-spacewalk-」(仮称)
5	有限会社スコット	国内外の演劇人を対象とした教育プログラム
6	公益財団法人 東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト	クリエイター・イン・レジデンス(教育プログラム)、 フォーラム「日本のアーティスト・イン・レジデンスの未来に向けて」
7	特定非営利活動法人BankART1929	新・港村ー小さな未来都市ーBankART Life 3

「文化庁メディア芸術祭」について

【事業概要】

- 目的 メディア芸術祭は、優れたメディア芸術作品を顕彰するとともに、これを鑑賞する機会を提供することにより、メディア芸術の創造とその発展を図り、もって我が国文化の向上と振興に資する。
- 概要 4部門（アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ）ごとに優れた作品を募り、文化庁メディア芸術祭賞を顕彰する。また、受賞作品を、各部門の特徴をいかして展示・上映し、解説、デモンストレーション等を実施する

【平成23年度事業】

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 作品募集期間 | 平成23年7月15日（金）～9月22日（木） |
| 受賞作品の発表 | 平成23年12月15日（木） |
| 贈呈式 | 平成24年2月21日（火）[於：東京ミッドタウンホール] |
| 受賞作品展 | 平成24年2月22日（水）～3月4日（日）[於：国立新美術館] |

「文化庁メディア芸術祭海外展」について

【事業概要】

- 目的 我が国のメディア芸術の海外への発信力の強化のため、文化庁メディア芸術祭海外展を開催することで、我が国の優秀な作品を紹介するとともに、海外での評価を得ることにより、我が国のメディア芸術の発展に資する。
- 概要 文化庁メディア芸術祭の受賞作品を中心に、マンガ、アニメーション、ゲーム、インタラクティブアート、ウェブ作品など、日本の最先端のメディア芸術作品を総合的に展示・上映し、解説、デモンストレーション等を実施することにより、最新の我が国のメディア芸術を紹介する。また、文化庁メディア芸術祭に係る広報も併せて実施する。

【平成23年度事業実績】

- | | |
|------|------------------------|
| 開催期間 | 平成23年9月10日（土）～10月2日（日） |
| 開催地 | ドイツ・ドルトムント |
| 会場 | ドルトムントU |

ヨコハマトリエンナーレ2011について

1. 開催概要

会 期：2011年8月6日（土）～ 11月6日（日）

会 場：横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）、その他周辺地域

開場時間：11：00～18：00

参加作家：77組/79名 1コレクター

主 催：横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

共 催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

特別協力：独立行政法人国際交流基金

文化庁からの支援：国際芸術フェスティバル支援事業 200百万円

※ 国際芸術フェスティバル支援事業

我が国で開催される中核的な国際芸術フェスティバルに対し戦略的かつ重点的に支援を行い、これらを文化芸術の世界的拠点として育成することにより、我が国の文化芸術の水準向上を図るとともに、優れた文化芸術の海外への情報発信を強化し、世界の文化芸術の水準向上に貢献する。

2. 入場者数

333,739人

<内訳> 有料入場者数 250,693人

有料会場での無料入場者数（中学生以下等） 52,529人

無料会場入場者数 30,517人

<会場別来場者数>

横浜美術館 (有料会場)	日本郵船海岸通倉庫 (有料会場)	ヨコハマ創造都市センター (無料会場) 横浜市環境活動支援センター (無料会場)	合計
184,562人	118,660人	30,517人	333,739人

平成 23 年度「東アジア共生会議」について

■ 開催趣旨

東アジア各国が共生する未来に向けた理念を明らかにするため、東アジア諸国の文化人、芸術家、学識経験者、その他の文化に関係する者が一堂に会する会議を開催し、もって、東アジア諸国の文化芸術関係者同士のネットワーク強化を図るとともに、世界全体の共生にも貢献する東アジアからのメッセージを世界に向けて発信する。

■ 総合テーマ

「東アジアの共生文化を育てる ～東アジアの共生を実現させるために～」

■ 開催概要

日時：平成 23 年 12 月 13 日(火) 18:30～20:00、14 日(水) 13:30～18:00

場所：イイノホール&カンファレンスセンター(東京都千代田区)

主催：文化庁、NHK 後援：日本経済新聞社

■ プログラム

平成 23 年 12 月 13 日(火) 「東アジア民俗芸能公演」

平成 23 年 12 月 14 日(火)

セッション 1 テーマ：「災害と文化」

セッション 2 テーマ：「東アジア意識の現在と共生の課題」

総合議長 青木 保(青山学院大学大学院総合文化政策学研究科特任教授、元文化庁長官)

パネリスト等

赤坂 憲雄(学習院大学教授、福島県立博物館館長、東日本大震災復興構想会議委員)

高樹 のぶ子(作家、元九州大学アジア総合政策センター特任教授(アジア現代文化研究部門))

柳 仁村(ユ インチョン)(大統領文化特別補佐/韓国)

サムアン・サム(文化芸術省顧問、パンニャジャストラ大学芸術文学人文学部長、教授/カンボジア)

イ・ワヤン・ディビア(インドネシア芸術大学デンパサール校教授/インドネシア)

ナンダ・フム(文化省歴史研究局長/ミャンマー)

ラモン・パガヨン・サントス(フィリピン大学民俗音楽学センター長・名誉教授/フィリピン)

足羽 與志子(一橋大学大学院社会学研究科教授)

李 薇(リ・ピ)(中国社会科学院(CASS) 日本研究所所長/中国)

朴 喆熙(パク・チョルヒ)(ソウル大学国際大学院教授・副院長/韓国)

リー・ショール・リン(国立博物館館長/シンガポール)

ハンス・ゲオルグ・ゼフナー(エッセン文化研究所理事/ドイツ)

■ 来場者数

12 月 13 日(火) 民俗芸能公演 … 約 400 人

12 月 14 日(水) セッション1・2 … 約 250 人

■ 放送予定

○ 国際放送 1 月 13 日(金)、20 日(金)

○ 国内放送 セッション 1 2 月 25 日(土) 14:00～15:00 Eテレ

セッション 2 3 月 3 日(土) 14:00～15:00 Eテレ

「世界文明フォーラム 2012」について

平成24年1月13日
文化庁長官官房国際課

1. 開催趣旨

価値観や技術が急激に変化する21世紀において、我々現世代は「世代間公正」に十分に配慮することが責務である。この世代間公正を実現するために、「このたびの大震災も踏まえつつ、21世紀に我々はどのような地球環境と経済社会の姿を目指すべきか」、「それに必要な人間力を養成する上で、文化芸術はいかなる役割を果たしうるか」をサブ・テーマとして、世界各国の有識者による討論を行い、世界においてミニマム（ゆるやか）な・コンセンサスとして共有できるものを探る。

2. 開催概要

- 日時： 2012年2月6日（月）、7日（火）
- 場所： 東京プリンスホテル（東京都港区芝公園3-3-1）
- 主催： 世界文明フォーラム2012実行委員会、日本経済新聞社
- 後援： NHK

【実行委員会メンバー】

- ・ 実行委員長 **五百旗頭真**（防衛大学校長）
- ・ 実行委員 **国分良成**（慶應義塾大学教授）、**小島順彦**（三菱商事(株)取締役会長）、**近藤誠一**（文化庁長官）、**白石隆**（政策研究大学院大学学長）、**鈴木興太郎**（早稲田大学教授）、**田坂広志**（多摩大学大学院教授）、**長谷川閑史**（武田薬品工業(株)代表取締役社長）、**村田直樹**（外務省広報文化交流部長）、**鷲田清一**（大谷大学文学部教授）

3. メイン・テーマ 「世代間の公正を実現するために」

4. プログラム等

- 総合議長 **アマルティア・セン**（経済学者、ハーバード大学教授）
- パネリスト **吉川弘之**（科学技術振興機構研究開発戦略センター長、元東京大学総長）[日本]、**汪暉**（清華大学教授）[中国]、**呉建民**（元外交学院院長）[中国]、**アズマ・ジャハンギール**（法律家、Human Rights Watchの代表者）[パキスタン]、**ジョージ・ヨー**（前シンガポール外相）[シンガポール]、**オリヴィエ・ジスカル・デスタン**（Committee for a World Parliament 議長）[フランス]、**ペール・ヌーデル**（元スウェーデン財務大臣）[スウェーデン]、**スーザン・ネイピア**（タフツ大学教授、日本文化研究者）[米国] その他調整中
- 2012年2月6日（月）
 - **オープニング**
 - **セッション1 テーマ「21世紀文明への震災からの教訓」**
- 2012年2月7日（火）
 - **セッション2 テーマ「世界の経済・環境面での諸課題への対応」**
 - **セッション3 テーマ「芸術文化の果たす役割」**
 - **クロージングセッション**

第30回オリンピック競技大会（2012／ロンドン）
JOCジャパンハウスにおいて日本の魅力を発信

1. 基本概要

- (1) 実施主体
公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）
- (2) 期間
2012年7月27日～8月12日（17日間）
- (3) 場所
「4ハミルトンプレイス」（ロンドン）
（地下、1～3階／借用面積：約700㎡＋テラス）
- (4) 対象
オリンピックファミリー、日本代表選手団、
JOC・中央競技団体関係者、スポンサー関係者等、
報道関係者、一般（1階のみ）

2. 内容

- (1) スポンサー・JOC関係者へのホスピタリティサービス。
- (2) JOC及び日本代表選手団記者会見の実施に伴う報道対応。
- (3) JOCの国際力強化活動及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致活動の推進支援。
- (4) JOCスポンサーや日本放映権者（JC）との共同事業の推進。
- (5) 文化・観光等、日本の魅力を世界に発信。

【参考】第30回オリンピック競技大会（2012／ロンドン）

- (1) 開催地：イギリス／ロンドン 他
- (2) 期間：2012年7月27日～8月12日（17日間）
- (3) 実施競技・種目：26競技302種目

東アジア文化交流推進プロジェクト事業 106百万円

背景

- 第3回日中韓文化大臣会合日本国提案(東アジア芸術創造都市) (平成23年1月19日)
- 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針) (平成23年2月8日閣議決定)
将来的な東アジア共同体の構築も念頭に置き、東アジア芸術創造都市(仮称)や大学間交流における活動等、東アジア地域における国際文化交流を推進する。
- 「知的財産推進計画2011」クールジャパン戦略 (平成23年6月3日知的財産戦略本部決定)
- 東アジア共生会議のための有識者懇談会提案(「東アジア共生会議」と「東アジア共生文化都市」の開催) (平成23年8月26日)

事業趣旨

今後の世界の成長の源泉であるとともに多くの課題を抱えている東アジア地域で文化交流を通じた相互理解の増進、異質性の受容、信頼感の深化、共生を目指して、多様な文化を尊重しつつ東アジアの新たな共存の姿を追求し、それを世界に対して発信する。

具体的には、東アジア諸国の文化人、芸術家等が一堂に会する「東アジア共生会議」、日中韓三ヶ国内で「東アジア共生文化都市」を定めて様々な文化活動・芸術活動を開催するための準備事業を実施することにより、東アジア地域における文化交流・人的交流を一層発展させ、将来に向かっての同地域の連帯感と文化的な共生と創造に資する。

1. 東アジア共生会議の開催

東アジア諸国の文化人、芸術家等が一堂に会し、世界全体の共生を目指して東アジアからメッセージを発信する「東アジア共生会議」を被災地で開催

2. 東アジア共生文化都市開催のための準備事業

毎年、日中韓三ヶ国内で東アジア共生文化都市を定め、当該都市において東アジア各国の文化人・芸術家の参加を得て、様々な文化活動、芸術活動を開催し、三ヶ国をはじめとして東アジア各国から多くの参加者を得るプロジェクトを展開するために必要な調査研究を実施する。

「東アジア共生文化都市（仮称）」の実施について

1. 趣旨

毎年、日中韓三ヶ国内で「東アジア共生文化都市」を定め、当該都市において東アジア各国の文化人・芸術家の参加を得て、様々な文化活動・芸術活動を開催し、三ヶ国をはじめとして東アジア各国から多くの参加者を得る「東アジア共生文化都市」プロジェクトを展開する。

「東アジア共生文化都市」において多様性の発揮と融合を積み重ねることにより、文化の共同体の基礎を創造する。

将来的にはASEAN各国+ α に拡大することを目指す。

2. 具体的なスキーム

- 日中韓三ヶ国の持ち回りにより、順次、「東アジア共生文化都市」1都市を選定。
または、毎年、日中韓各国において、それぞれ「東アジア共生文化都市」1都市を選定。
※ 自然との共生などの東アジアの特質や当該都市の特質に応じた開催手法
- 「東アジア共生文化都市」を、一定のテーマの下に(例:音楽、映画、工芸、文学、デザイン等)選定するか否かについては、検討が必要。
- 「東アジア共生文化都市」は、各国政府が、各国に置かれる国内委員会の意見を聴いて選定し、日中韓首脳会談の場で承認。
- 「東アジア共生文化都市」では、当該年において、様々な文化事業を集中的に実施。文化事業実施のコア期間は1ヶ月程度。
- 日中韓三ヶ国は、舞台芸術の公演団の派遣、美術展の実施、大衆芸能、オーケストラの派遣、映画上映会等の他国での実施や自国内でのPR等により、相互に協力。
- 将来的には、ASEAN諸国の参加を得て実施することを目指す。